



市議会議員  
**砂田喜昭**  
Tel 67-4322



参議院議員  
**たけだ良介**  
前衆議院議員  
**藤野保史**



参議院議員  
**井上哲士**  
衆議院議員  
**笠井あきら**

# 砂田市議に総務大臣から在職35年感謝状



左:桜井市長、中央:吉田議長、右:砂田市議＝市議会本会議場

## 11月臨時議会で吉田議長より伝達



総務大臣から砂田喜昭市議に議員在職35年の感謝状が10月5日に贈られ、11月24日に開かれた11月臨時議会において、吉田康弘議長から伝達されました。砂田市議は同日、ツイッターなどSNSで「長きにわたって支持していただいた方々、議員活動を支えてくださった多くの皆さんに感謝の気持ちを込めて、報告します。皆さんの支えを力に、期待にこたえられるよう、今後とも努力します。」とコメントしました。

### 早朝除雪の実現が議員生活のスタート

初当選直後の1986年9月議会で砂田市議は松本市長(当時)に「出勤時間に間に合う除雪体制」を求めました。改善点として①新雪50センチでの出勤基準を15センチにすること、②当時の出勤開始時間が朝6時からというのを改めて、朝6時まで完了すること等を提案しました。市の答弁は「町内会長連絡協議会等で反省会を開いて改善に努める」というものでしたが、ある町内会長は「除雪体制を改善しなければ赤旗を立てて市役所に乗り込むぞ」と掛け合ってくれたそうです。

日本共産党小矢部市委員会と砂田市議は富山県の除雪機械借り上げ単価を調べ、県では朝6時までの出勤には夜間割増料金を支払っているが、小矢部市は昼間料金で契約して朝6時からの出勤となっていることを明らかにしました。砂田市議の質問原稿と単価表、砺波市、福岡町の除雪体制の比較表を、市内の全ての除雪引受業者に送りました。

86年12月議会では松本市長の死去で大家市長(当時)に代わっていましたが、①新雪15センチで除雪車出動、②出動指令は担当宿直者の権限で発し(それまでは助役の承認が必要だったのを改めた)、③業者には夜間割増料金を支払うこととなりました。

## 12月議会提出議案

### コロナ対策

#### ○高校生等に5万円を給付

12月議会に3億5千万円余の新型コロナウイルス感染症対策関連の補正予算案が提出されました。その他、アルビス工事中の地中埋設物処分や定住促進事業、給与費の精査などで補正予算全体では4億6千万円になります。



高校生等までの子どもがいる世帯に対して子育て世帯への5万円の臨時特別給付金を支給します。予算額は3850人分で1億9648万6千円、全額国費です。

#### ○ワクチン接種3回目に1・4億円

3回目の新型コロナウイルスワクチン接種に1億42百万円を計上しました。財源は全額国庫支出金です。

#### ○砺波医療圏急患センターに5百万円の支援

小矢部市は砺波医療圏急患センターに501万2千円を支援します。コロナ感染症で受診者が減少し診療報酬が激減したため、小矢部市、砺波市、南砺市で支援します。全額国費です。砂田市議は市議会全員協議会(3日)で他の医院、病院など医療機関でも受診抑制で診療報酬に影響が出ているのではないかと問題提起しました。

### 科学的社会主義を議会活動でも活かす

砂田 喜昭

日本共産党は科学的社会主義を理論的基礎とする政党で来年には創立100周年を迎えます。私はその一員として、議会活動でもその精神を活かすことを心がけてきました。マルクスの「理論もそれが大衆をつかむやいなや物質的な力となる」「ヘーゲル法哲学批判」から学んで、議会での議論をそこだけにとどめず、「明るい小矢部」などで広く市民に知らせ、市民の世論と運動で実現することに心血を注いできました。これを35年間続けてきたことへの総務大臣感謝状と受け止めています。

#### ○子どものインフルエンザ予防接種

1回3千円を助成

子どものインフルエンザ予防接種助成事業では、県からコロナ対策のための子育て応援臨時交付金503万3千円を得て、市の一般財源を使わなくて済むことになりました。インフルエンザ予防接種は、9月議会で小学生までは2回接種で1回毎に3千円、それ以後18歳までは1回接種で3千円を助成することにしていました。

#### ○行事の中止・縮小で1925万円が不用

新型コロナウイルス感染症の影響による不用額は1925万3千円でした。行事やイベントの中止、縮小によるものです。この内議会費では行政視察などが中止となり250万円が不用となりました。秘書費でも259万9千円が不用となりました。